

第10回 県芸術祭
第31回 徳島県美術展

とき **11月6日(土)→14日(日)**

毎日午前10時～午後5時

ところ **県郷土文化会館**

日本画

洋画

写真

彫塑

美術工芸

書道

商業美術

主催

徳島県美術家協会

徳島県教育委員会

徳島県芸術祭執行委員会

徳島新聞社

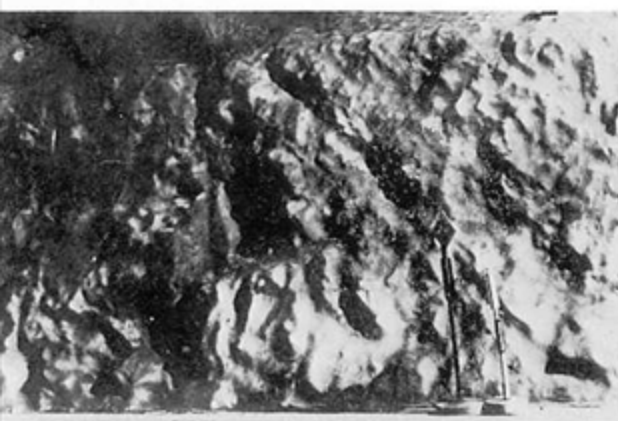
写真



招待
追想の壁の中に 井上光雄



招待 道 福島正仁



招待 バス停 木田英之

招待
坂口あさ 藤井 梵



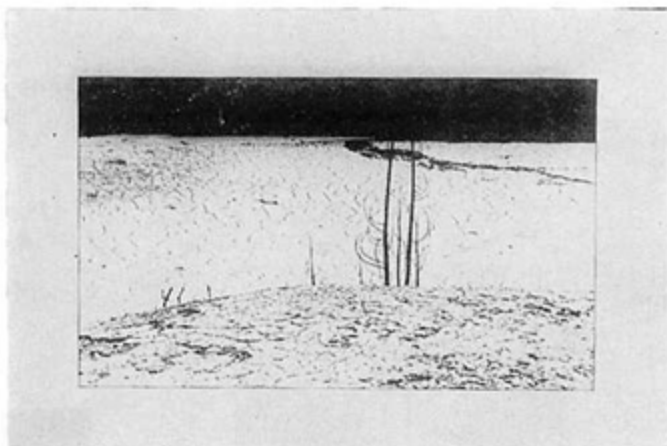
招待 吉野川暮色 増田清次



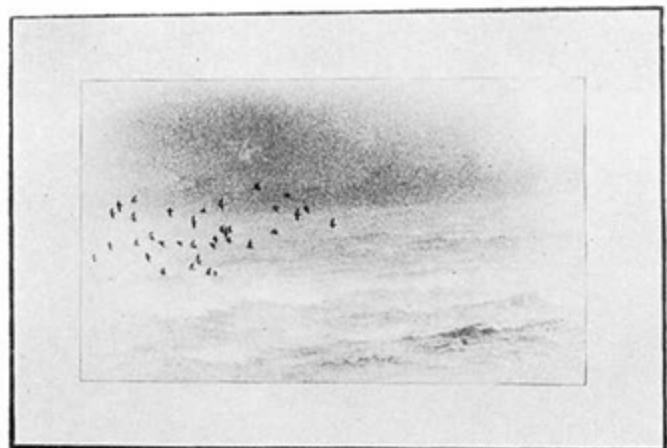
招待 残 光 笹田敏雄

無鑑査

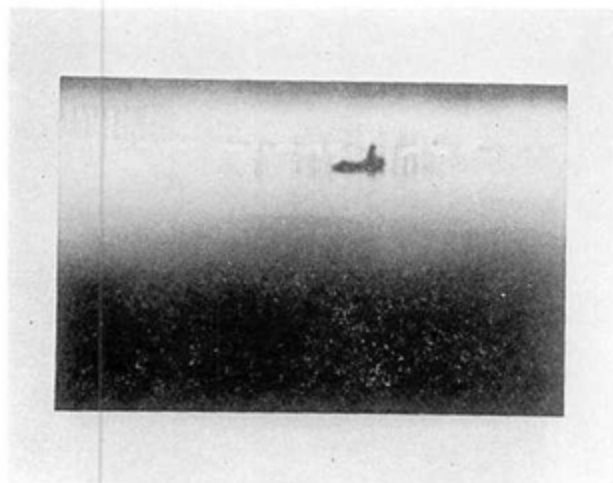
飛驒の民家 楠潤 魏



招待 渴 西条征二



招待 時化する 武内 亨



特選 海辺のポエム 庄野 有

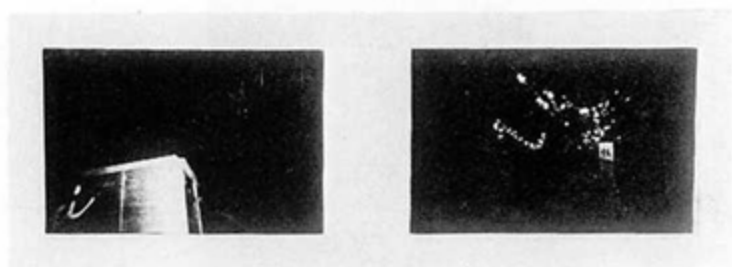
特選
出水 三好和義



招待 夕ぐれの時はよい時
勝西雅夫



特選 冬野 納田康雄



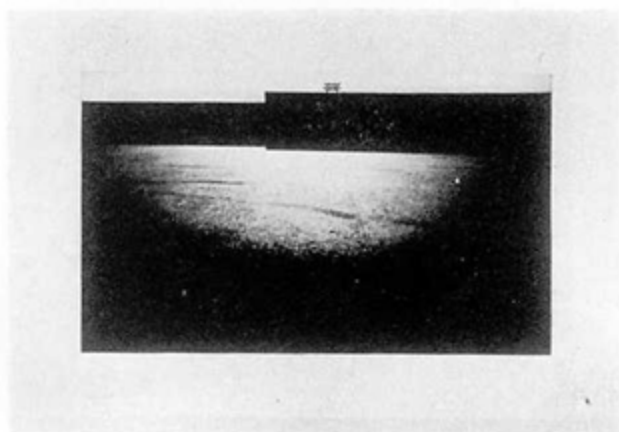
特選 夜のしじま 三好和義



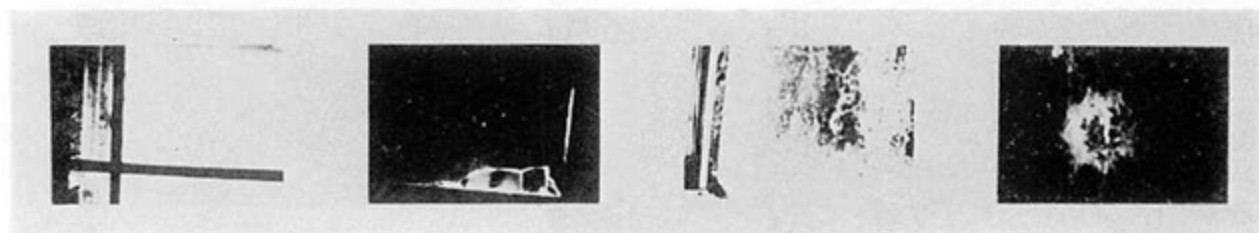
特選 壁紙1-3 北川さだかつ



準特選 雨の登校 一宮保治



特選 落陽 上野照文

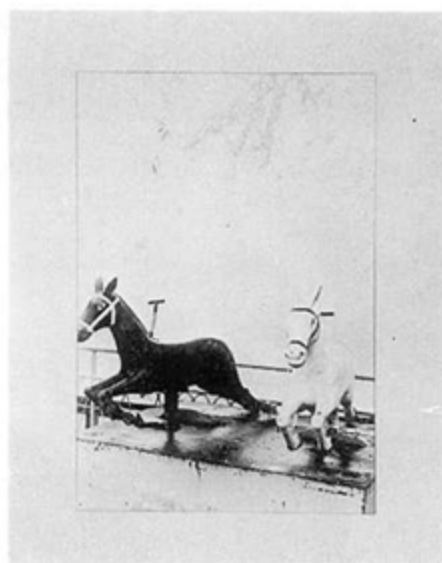


特選 化石 滝花性善

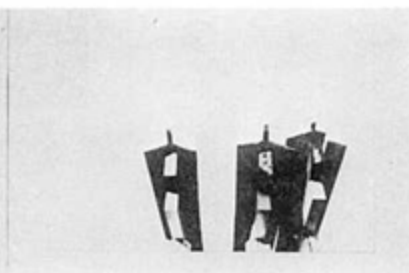
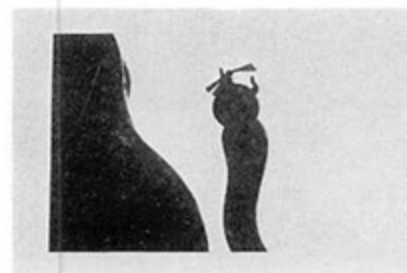
特選
青春讃歌
岡しのぶ



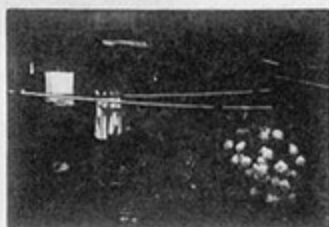
準特選 台風通過 三好和義



準特選 春の公園 中川定典



準特選 伏見の印象 中川憲四郎



準特選 透明な光の中に 三好和義



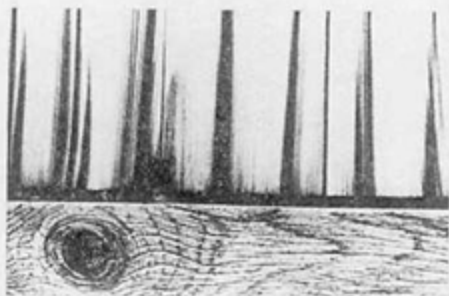
準特選 少女 賀川泰広

準特選 漁火B 生田秀男





準特選 シラス漁 生田秀男



準特選 跡 賀川泰広



準特選 男 板東敏晴



準特選 虚日 野口佳一



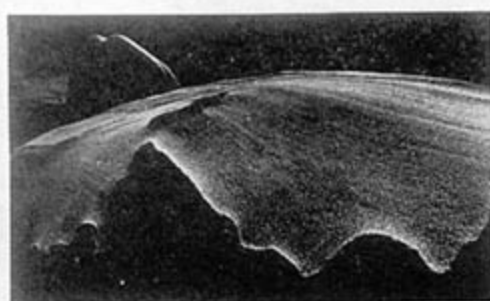
準特選
冬日
三好
進



準特選
灯ろう流し
大津弘志



準特選
或る風景
丸龍久



準特選 静寂 林敏彦

△招 待▽

道 吉野川暮色 増田清次

追想の壁の中に 井上光雄

バス 停 木田英之

夕ぐれのはよい時 勝西雅夫

坂口あさ 藤井梵

時 化 る 武内亨

残 光 笹田敏雄

△無 鑑 査▽

飛驒の民家 櫛渕 魏

△特 選▽

冬 海辺のボエム 野納田康雄

出 夜のしじま 水三好和義

化 落 青春讃歌 岡上野照文

雪 景 B 関口潤二郎

壁その1・その2・

その3 北川さだかつ

△準 特 選▽

村六春爛春海冬	△入	或	静	虚	秋	シ	漁	冬	少	跡	雨	男	灯	春	台	透	伏
の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
灯光	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
好	好	好	好	好	好	好	好	好	好	好	好	好	好	好	好	好	好
和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義	義

たそがれのむぎばたけ	風紋	湖群	郷愁	路傍	四国カルスト(B)	回転ブランコ	雨日	コンテナ基地	脇町の印象	ある隅	猿	カールスト	冬路	北ぐにの町	白日	濠	雪降る	雪の宵えびす	藍屋敷	砂丘残雪	残夏	盛ねが	お	煙る奥の院	鳥	レコンコン畑
三好和義	堀洩完治	〃	三木春夫	中川定典	新居見萬幸	後藤尚	上野照文	〃	〃	〃	大津弘志	関口務	〃	〃	〃	古井謙吉	〃	〃	〃	〃	〃	岡崎茂春	〃	〃	原田忠義	〃

[illegible]

雪景 A	雨あがりの団地	裏の牧場	冬の牧場	白い水線	造船接工	網走湖にて	雨の馬溜	猫	風	小さい冬	終焉	北の海	風の街から	香港の印象	阿波踊り	鳥の群	冬の枯れ日	木の枯れ	たそがれ	てビザンチンの僧院に	黄昏	窓	老女	田
関口潤二朗	〃	〃	〃	〃	〃	〃	島村泰邦	尾崎孝幸	安長剛	〃	〃	楠武	〃	〃	田中久夫	〃	一宮保治	〃	〃	古屋素子	井藤満男	賀川泰広	〃	〃

照	瀧	り	月	こ	日	日	夏	け	線	火	道	昏	り	ド			日	り	形	園	景	出	後		中
林	藤	川	鹿	市		福		大	織		森	柿	城	鈴					山		三	日		香	多
井	端	島	原		田			西	田		賢	原	尾	木					下		好	向		川	田
和			公	千		勉		健	勝		一	有	静	誠					勝		孝			晴	
彦	昇	均	夫	子				一	彦		一	一	子						正		進	文		朗	義

[illegible]

波	内	暗	風	撮	春	又	黄	か	オ	み	体	ぎ	波	カ	雨	若	魅	飛	残	濃	肌
				影				え	ニ	ず		ん	し				せ	雪			
	ノ	空	景	会		ー		っ	ハ	あ	育	な	ぶ	モ		獅	ら	と			
		去		寸				て	ス	さ	祭	ん	き	メ	後	子	れた	原		①	
	海	来	A	描	宵	ド	昏	きた	ゾ	ぎ						景	沫	生	霧	②	
		湯					橋	小	武	楠	椎		奥	村	古	小	丸	岩	木		
		本					本	松	田	本	野		野	沢	谷	山	龍	崎	下		
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	主	宗	恭	恭	正	〃	健	義	忠	正	〃	英	純		
		一					裕	彦	二	子	彦		二	清	義	志	久	昭	一		
		生																			

〔審査評〕

岩 宮 武 二

(大阪芸術大学教授)

毎年他県の県展でも審査を行っているが、中でも徳島は質的によい。いつも胸をワクワクさせながら作品を選べるのは、すぐれているということだ。特選九点と準特選十六点には、ほとんど差がない。この点に立って選ぶかによって違ってくるが、私は徳島県民の展覧会であることを優先させて審査した。

来年へ向けてのアドバイスとしては、組み写真の失敗があったこと。例えば二枚組なら一たす一は二でなく、四にも五にもなって語りかけるものがあってほしい。また入、準特、特選それぞれ写真表現についていろんな問題を持っている。一つ一つの作品が表現の条件、問題を示唆しているので、それらを各自が展覧会場でよく学びとってほしい。

三好和義「出水」(特選)は水中カメラ使用。画面半分が水につかっており、レンズの位置が普通でない。そこから出来上がる写角がよい。同「夜のしじま」(特選、組み)はつくる側の感性が表れ、今年の収穫にしているのではないか。三好君は昨年の器用さから、さらに力を結集した感がある。

上野照文「落陽」(特選)は何でもないものを個性的に仕上げ、映像としてうまくいっている。作品にパワーがあるから、最後まで光って見えた。

庄野有「海辺のポエム」(特選)はややピンぼけだが、一種独特の味わい、ロマンがある。今までの県展になかった作品。

岡しのぶ「青春讃歌」(特選、組み)はうんうん気張ってないだけいい。素ばくな目を大切に。